

朝4時に銀座書斎入居ビルに来て、
感心、考えたこと。

提出日 2019年10月8日 火曜日

英語道弟子課程 弟子 H.K.

朝4時に銀座書齋入居ビルに来て、感じ、考えたこと

先日、朝4時より、銀座書齋入居ビルの清掃活動をさせていただき、準備を始めてから、清掃中、清掃後に至るまでの間に、色々なことを感じ、考えました。その内容を、本リポートにてお話しさせていただきます。

〈4時に清掃をしたかった理由・背景〉

これまでは、6時より、1時間半位の間に清掃をすることが多かったのですが、先日、清掃した後に、塵の落ち方を見てショックを受けたことがきっかけとなります。(塵がたくさん落ちていた)
いつも、全体をざっと清掃して、ビル全体を大体網羅しているだけだった、と思いました。銀座書齋の空間は、常に、新鮮な空気を保っていたい、そして、最高に清らかな空間にしておきたいので、自分の最高を、普段の清掃で行いたい、と思い、もっとしっかりと十分に清掃ができる時間を確保しようと考えました。

〈準備のときに感じたこと、考えたこと〉

先生に電話をして時間を早めることを願い出て、許可をいただいた時から、準備が始まりました。電話を切って、真っ先に思ったことが、「やったー！」でした。「これでもっとしっかりと清掃ができる！」と思ったのが正直な、素直な気持ちです。

何持ていこう？ 何がどれくらい要る？ お花、もっていこう！ お花屋さんには絶対、あの、お花を、生まれたての赤ちゃんを触るように扱ってくれる、あのお店がいい！ どんなお花がいいかな、秋のパンパスグラスとコスモスなんてどうかな、

…と、「遠足に、おやつ何持ていこう？」と、小学生の頃に戻った気分です。もう、嬉しくてしょうがない。しっかりと清掃できる！と思うと、嬉しかったです。

金曜日。1分でも早く退社したく、時間が来るのが待ち遠しい。定時にはなると、携帯電話のチェックもせず、お花屋さんへ向かいました。すでに両手に、翌日に使う物を調達して持っていた為、両手が塞がっていました。なんと、お花を買い帰る。19時に帰宅後は、すぐに水揚げをしました。明日、生けるのが楽しみで楽しみで。

以後は、あまり時間が無いため、寝ないことにしました。1回だけ音楽を聴き、20時から23時までは学習の時間、23時には、

提出物のコピー作成。24時に清掃に使う道具をすべて揃え、1時から1回だけ音楽を聴きました。(音楽と書いているのは、ベートーヴェンの交響曲第5番のことです)

自宅から銀座書齋までは自転車で30分ですので、3時出発を予定し、その前の2時半には、自転車のそうじ、タイヤの空気入れ、荷台に荷物をいくつか積んで、落ち着いたように紐でくくりつけました。

自転車で夜逃げでもするの？という位、大きくなってしまった荷物ですが、本人は、ウキウキしながら積んでいます。自転車に荷台を取り付けたのは、清掃グッズを積むためでした。

< 出発するとき感じたこと、考えたこと >

3:20位に乗り出せば、十分、4時に間に合うのですが、3時を回るともう行っちゃおうかな！という気分で出発しました。乗り出してすぐ、「二人なこと、趣味でやったゴルフの時もホデイボードの時も無かったな。」と思い出しました。遊びなのに、真夜中に起きるのは早かったんです。「なんで二人早く起きなきゃならないんだ」と思っていました。同じような真夜中の3時、なのに、その時と今とは、感じ方がまるっきり違う。それは、本当に望んでいることを「行うから」と思いました。趣味も遊びも自分で望んでいいけど、余暇に行うものであり、自分自身のメインではない。でも、銀座書齋に行くための3時は、本来の人間として、やりたいことを行っている。そのために生きていると言える。お金のために仕事にいくのでもないし、余暇を有意義にしようとする活動でもない。本当に望んでいることを行えるって、本当に幸せだ。...と感じました。

自宅の周辺は、どうしたのかと思う位、たくさんの方が歩いて驚きました。タクシーも渋滞していました。考えれば、少し前まで、私もその一員でした。

渋滞をやっとの思いで抜けた3:17頃、自宅にお花を置いてきたことを思い出しました。迷いもなく、引き返しました。これが会社だったら、私はたとえパソコンでも戻らないな...と思いました。

お花を持って再出発すると、外は強風が吹いていました。お花が飛ばされそう。荷台は、荷を積みすぎて重く、ハンドルが取られます。必死で漕いで、やっと、人通りの少ない皇居周辺で、真暗な空の下に、いることがわかりました。「今、太陽の影だな」と思いました。そして、風が強い。地球の表面で、東京、という小さな所が吹き飛ばされそうな絵が浮かびました。やりたいことをやるのが人間なんだ。

やりたいことを、あーだーだ言わずに、やれば良いんだ、やりたいことを
やれば良いんだ、だから、強風が何からくるのは苦しいけど、
私も今飛ばされそうだけど、やりたいこと、本当に望むことを
やっているから楽しい、やりたいことをやる所に向かっているから
楽しい。これが、人間の人生として与えられた醍醐味なんだ、
会社に行くため、遊ぶため、ではないから、とても幸せなんだ、と
感じながら自転車を走らせていました。数年前も、同じ3時の真暗な
空の下、同じ東京の、同じこの場所にいました。同じ所にいるのに、
昔と今では全く違う感じ方がありました。今の方が遥かに幸せで
心の充実感があって、人間として生きている感じがしました。

<銀座書斎に到着して>

3:55、何となく間に合いました。2回に分けて、荷物を下ろしますが、
生井利幸先生の弟子になれて本当に良かった、弟子として勉強させて
頂けて、本当に良かった、知識を詰め込む勉強だったら、私には
全然向かない、最高の勉強を先生からご指導いただき、何かを
覚えるではなくて、すべて、実践からだと、そこからしか、本当には
学べない、その本当の学びを、やりたいことをやっつけて学ばせていたくださ
って、本当にありがたい、たし、うれしい、と、全身で感じながら、
荷物を運んでいきました。

5階に着いてスリッパを履いたとき、3:59でした。一人でいても寂しくない
どころか、思う存分に清掃をして良かった、と思うと、贅沢な
気持ちを感じました。外には人がいたので、間違っ入ってこられない
ように、中から鍵をかけた。

<清掃中に感じ、考えたこと>

生井利幸先生が用意してくださった「教訓」が、弟子専用の聖書で
あること、聖書をもちと細かくして弟子専用、日本語で、命りよく
作成されたこと、最初は、そのことを有難い、と思ひ、それから嬉しい
にかわり、楽しい、と感じていること、本当の勉強をさせていただけ
ることの喜びを実感したり、(一生懸命に何かを覚える、をけいこ
いうこと)、今あることだけに向き合えること、を感じていました。

いかり清掃をして、お花とモリッカリ向き合えました。
普段のお花のお手入れは、どうしても時間がかかりすぎる、色々悩みを
しますが、あまり、ゆっくりはしてられず、後で振り返ったり、考えたりする
ことがありませんでした。が、急ぐ心配をせずに、お花と向き合いますと、
いろいろと見えてきます。このお花は、ただ丈が長ければそれでよいの
だろうか？ もっと良い状態を見てほしいのではないかな？

お花の一番いい顔をどこに向けるか？ この空間の中でのこのお花の存在とは？ 全体の雰囲気・空気感とは？ どのお花と並べたらいいだろうか？ あーでもない、こーでもない、と、両手にお花を持って、置いたり、高さしたり、やっぱり天に戻したり、と繰り返しました。いつもはそこまでできないので、これも嬉しく思いました。

自分の持ってきたお花は、イメージがあるので、葉っぱを取って、枝を切り、向きを決めたら、全体の雰囲気をしながら微調整、歩いて邪魔にならないよう、再調整し、終わりですが、時間をかけて扱いたいのは、ほかの方々がお持ちになったお花です。丁寧に扱い、切って白い液が出れば、出なくなるまで取り除き、カーネーションなら、弱った花びらを一枚ずつ、そっと抜き取ってあげれば、元気なほうに栄養が回ってくれるかな、と考えながら扱いたいのです。1時間以上要しますが、本来、そうしてあげるものなんだな... とおもってきます。

< 終了後... >

掃除は3時間必要、とおもいました。私にとっては、です。3時間半かけてしまいましたが、掃除するときは果はまた"また"あります。思えば、一年前に弟子の清掃活動が始まったとき、何時間もかけて、清掃していたと思います。その時のことを思い出しながら清掃することも勉強だなとおもいました。

このたびは長時間の清掃とレポート作成の機会を頂き、ありがとうございました。